

## 救済とは許す心が溢れ出たものです

最近オリンピックエンブレム問題で批判されている方に対しての誹謗中傷がネットで溢れかえっています。いじめの様相を呈しています。

「過ぎたるは及ばざるがごとし」なのですが、やりすぎてしまうのが私です。

また、責任論、情報公開や透明性という言葉が飛び交っていますが、今自分が生きるために本当に知る必要があるのか？と考えると、あまり必要でないことのように思います。「もっと知らなければならないことがあるのだよ」と、阿弥陀仏は呼びかけています。

それは、なぜ私に「なもあみだぶつ」を阿弥陀仏が与えて下さるのか？と聞いてみると、救われようもないいのちを何とかして救いたいと願われた方が永い時間考えて導き出した答えは、自業自得の道理ではすべてのいのちを救うのは不可能。すべてのいのちを救済できる法則を作り上げて真実の力を与えて救済しようと動かされたのが阿弥陀仏です。

その救済は、私に何か条件を付けたり、阿弥陀仏が私に金品を要求したりすることなく、償いを 1000 年しなくても無償の愛で私たちを救おうとされているのです。

阿弥陀仏から与えられた、なもあみだぶつと唱える人生は、自業自得の迷いの法則を超えた真実の領域で生きているのです。それを、お釈迦さまはさとりと言われました。合掌

写真は西本願寺阿弥陀堂

